

健康

ライフ

近年の医療は専門化し、開業医でもその傾向が強い。今後の地域医療を考えると、総合医療の「かかりつけ医」が求められる。泌尿器科は腎臓や膀胱、前立腺などを扱う診療科だが、大阪市天王寺区の旭泌尿器クリニック・山口旭院長は「泌尿器疾患を通して全人的な治療を追求したい」という。院長が考える泌尿器の全人的医療などについて聞いた。

旭泌尿器クリニック

山口旭さん

泌尿器科とは

山口 泌尿器科は副腎

や腎臓、尿管、膀胱、尿道、男性生殖器を主に扱う科目です。副腎や腎臓

は体の細胞の浸透圧の調節やナトリウム、カリウム、カルシウムなどの電

解質の調整をしています。さらに、血中の老廃物の排泄や体液量、血糖

値、血圧などの調整、ストレスから体を守るなどの機能が

あります。機能が低下すると血圧や血糖、心臓、精神的問題など

が全身への悪影響が少なからず起こってきます。



key person

泌尿器科の全人的医療とは

山口 それは、泌尿器科の専門領域である「お

泌尿器疾患を通じ全人的治療

害や勃起不全などの症状を訴える男性が多くいます。それらの疾病では、複数の薬剤を組み合わせた総合的な治療の提案もしています。

全人的な治療を目指すきっかけは

山口 私は、自治医科大学を

卒業しました。同大学は、医療資源の少ない僻地や離島などで地域住民の医療を確保するため、47都道府県が共同で設立した学校です。目的は地域住民の期待に応えられる「総合医」の育成です。

卒業後、出身地である奈良県山間部の上北山村

しっこ(尿)の問題を通して、患者の全体的な問題点を考慮し、全身的に治療する総合医療の「かかりつけ医」的な考え方です。当然、重大な疾病と判断したときは連携する高度医療施設に紹介します。

また、最近では更年期障

害や、川上村の国民保険診療所に勤務しました。医師1人と看護師2、3人が往診や外来診察で、全ての疾患に対応していました。私にとっては「全人的医療」は自然の流れです。

地域で在宅医療にも対応しておられる

ら約3キロ圏内の人が対象です。在宅医療は内科の先生が多いと思います。泌尿器科医が関わらべき状態は多くあります。例えば、尿道カテーテルや尿路感染症の管理、おむつかぶれや褥瘡の予防、適切な排尿環境の提案などです。在宅診療は他の専門領域の医師らとも連携することが重要です。



山口 当クリニックから約3キロ圏内の人が対象です。在宅医療は内科の先生が多いと思います。泌尿器科医が関わらべき状態は多くあります。例えば、尿道カテーテルや尿路感染症の管理、おむつかぶれや褥瘡の予防、適切な排尿環境の提案などです。在宅診療は他の専門領域の医師らとも連携することが重要です。